

大分舞鶴高校の「SSH 重点枠」採択の決定について

R3. 4. 9
高校教育課

1. 概要

令和3年度から新たに4年間、文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）重点枠に、大分舞鶴高校が採択を受けた。

2. 指定の内容

- ・当該校は、令和2年度から5年間の基礎枠に指定されている。
- ・重点枠は、県内外のSSH校と連携して、地球規模の社会共創について取り組む。
- ・基礎枠の経費支援750万円／年に加え、重点枠は1,000万円／年。
- ・重点枠には、全国9校の応募から新規1校、継続3校が採択（令和2年度以前と合わせ、令和3年度の重点枠は14校が指定）

3. 大分舞鶴高校の重点枠のテーマ等

【テーマ】

「宇宙」に関わる社会との共創により、Society5.0の社会を牽引し世界や地域で活躍するイノベーション創出人材の育成

【取組】

- 九州スペースサイエンスコンソーシアム
 - ・致遠館、長崎西、熊本第二、日田、佐伯鶴城と連携した合同研究
 - ・宇宙等に関するオンライン講座、県外研修、合同の課題研究、成果発表会等を実施
- 生徒を世界と社会につなげるプラットフォーム
 - ・NASA、JAXA、国立天文台等の最先端研究施設での研修
 - ・東京大学、九州大学、九州工業大学、大分大学等との共同研究
 - ・商工観光労働部と連携したアントレプレナーシップの育成

【協力者等】

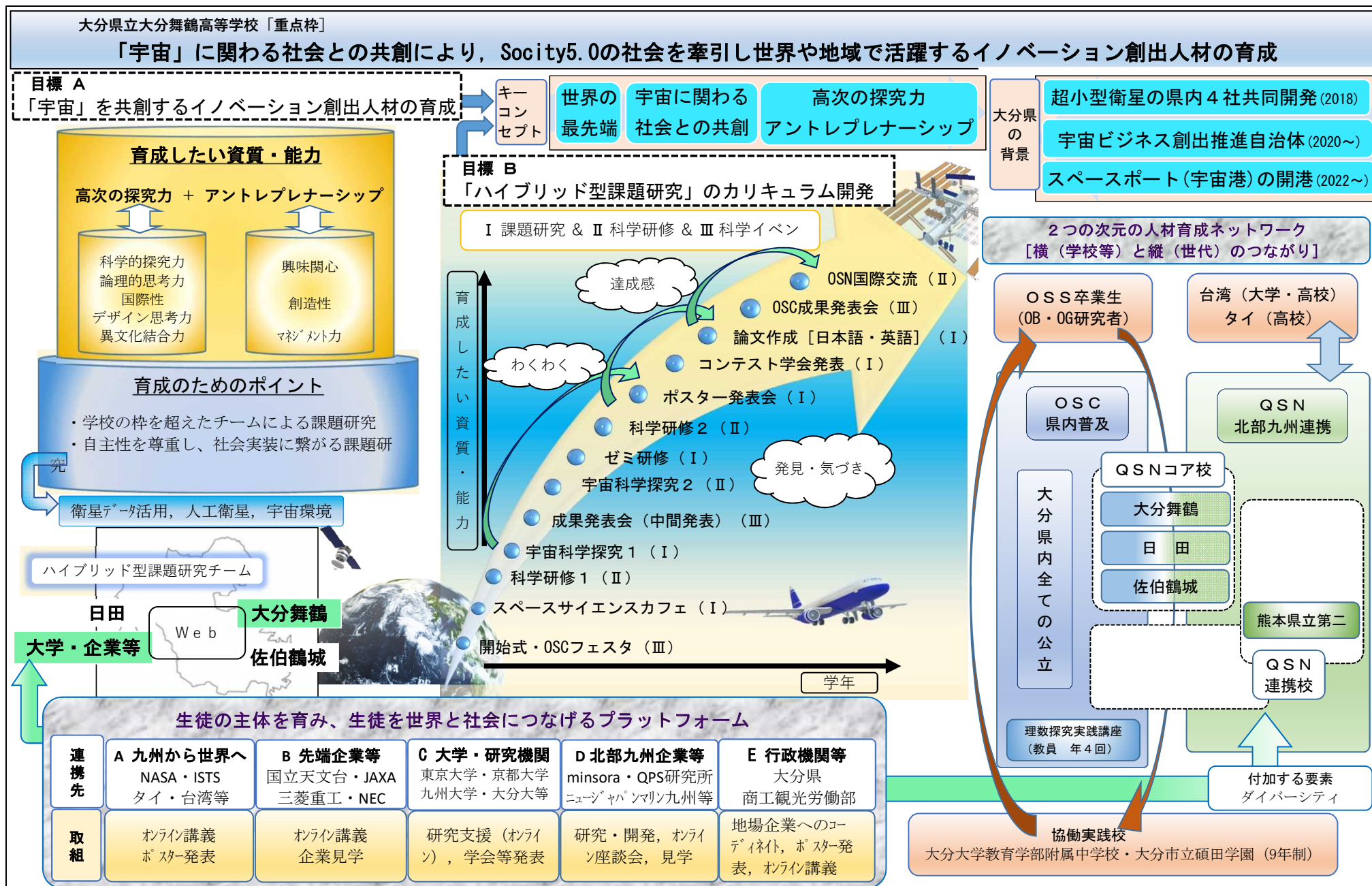
東洋大学 食環境科学部	教授	後藤 顕一
大分大学 教育学部	教授	三次 徳二
日本文理大学 工学部	学部長	室園 昌彦
崇城大学 工学部	教授	八田 泰三
おおいたスペースフューチャーセンター	代表	高山 久信

4. 本県のSSH指定の状況

- ・大分舞鶴（平成17年度～、第4期2年目）
- ・日田（平成23年度～、第3期1年目）
- ・佐伯鶴城（平成29年度～、第1期5年目）

5. 他県のSSH重点枠指定の状況（全14校）

- ・札幌日大（北海道）、米沢興譲館（山形）、私立千葉（千葉）、時習館（愛知）、膳所（滋賀）、嵯峨野、立命館立命（京都）、奈良（奈良）、大阪天王寺（大阪）、尼崎小田、神戸（兵庫）、観音寺第一（香川）、大分舞鶴（大分）、宮崎北（宮崎）



日田高校の「SSH 基礎枠」採択の決定について

R3. 4. 9
高校教育課

1. 概要

令和3年度からの、文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクールに、日田高校が3期目の採択を受けた。

2. 指定の内容

- ・令和3年度から5年間指定、経費支援は750万円/年
- ・全国43校の応募から、新規4校、2期目以降の継続17校が採択（令和2年度以前の指定校と合わせ、令和3年度は228校が指定）

3. 日田高校の3期目のテーマ等

【テーマ】

「日田高ステアリングプロジェクト」の実践を通じた未来開拓型科学技術人材の育成

～「日田高RGB」を備えた未来開拓型科学技術人材を目指して～
(R=Research=探究力、Glocal=波及力、Basis=基礎力)

【取組】

○探究的な学校独自の科目

- ・社会科学及び自然科学から水にアプローチする「Water Science」
- ・豪雨被害等に関する防災等の地域課題を解決する「水郷ひた学」
- ・プログラミング等により論理的思考力や表現力を育成する「SSP」

○授業改善

- ・探究活動の基盤となる資質・能力を各教科の授業で育成
- ・逆向き設計、課題解決、社会実装の「深い学び3項目」の実践

○外部連携と裾野拡大

- ・地元企業や官公庁と連携した、社会課題の把握と解決策の実践
- ・小中高の学び接続を意識した授業連携と小中生への科学普及活動

【主な協力者等】

東洋大学 食環境科学部 教授	後藤 顕一
別府大学 文学部 国際言語文化学科 教授	山野 敬士
日田市立光岡小学校 校長	石原 康広
大分大学 教育学部 教授	大上 和敏
九州大学大学院 工学研究院 准教授	清野 聡子

4. 本県のSSH指定の状況

- ・大分舞鶴（平成17年度～、第4期2年目）
- ・日田（平成23年度～、第3期1年目）
- ・佐伯鶴城（平成29年度～、第1期5年目）

5. 九州各県のSSH指定の状況（令和3年度）

福岡（4校）	佐賀（1校）	長崎（3校）
熊本（5校）	大分（3校）	宮崎（3校）
鹿児島（5校）	沖縄（2校）	

※指定終了までの経過措置校を除く。
※全国の指定校は計228校

研究開発課題名

「日田高ステアリングプロジェクト」の実践を通じた未来開拓型科学技術人材の育成

日田高校SSH指定2期10年間の成果 (□は生徒の姿 ○は教員の姿)
 □授業改善を土台とした、思考力・判断力・表現力・協働性の向上
 □課題研究の質の向上 (SSH生徒研究発表会3年連続ポスター賞 ※参加200校中20校が受賞)
 ○教科融合のカリキュラム開発 (水に関する探究を行うWater Scienceは各方面から好評価を頂く)
 ○地域と協働した取組や小中高連携による「地域循環型教育」の醸成
 課題●育成を目指す生徒像の明確化 ■探究の過程を自ら遂行する力の育成
 ■発信・提案・実践する力の育成 ■新たな情報と既有知識を結び付ける力の育成

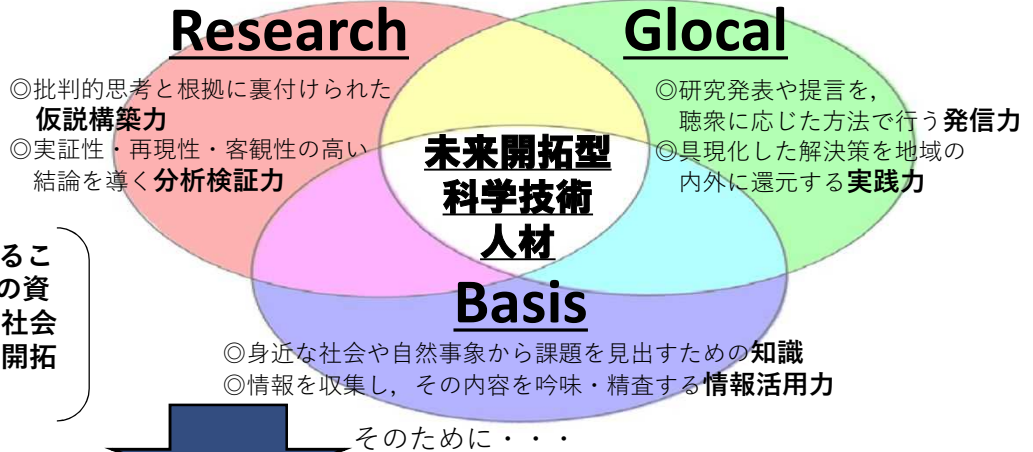
日田地域の現状
 ①「水郷日田」と呼ばれる豊かな水資源を保有
 ②10年間で4度の豪雨被害を経験
 ③日田市人口は10年間で9.4%減少

度重なる豪雨被害を受けても、地域とともに生徒は立ち上がり学びを続けてきました。今後の予測困難な事態にも粘り強く立ち向かい、科学技術の力をもって**地域と世界の未来を切り拓く人材**の育成を目指します。

育成を目指す生徒像

「日田高RGB」を備えた未来開拓型科学技術人材

「光の3原色(RGB)」で全ての色を作ることができるように、「日田高RGB」の資質・能力を備えることで、あらゆる社会課題に適応し、地域や世界の未来を開拓できる人材を育成します。



日田高ステアリングプロジェクト【SS探究科目が校内の舵取り役を担い、人材育成へ導く取組】を実施します。



STEAM教育の視点を取り入れた「SS探究科目」(SSHに係る学校設定科目)の概要

科目名	SS Presentation 1年全員 2単位	SS Communication 2年SSクラス 1単位	探究Ⅰ・Ⅱ 2年SSクラス 3単位 3年SSクラス 1単位	水郷ひた学Ⅰ・Ⅱ 2年文・理系 1単位 3年文・理系 1単位	Water Science 1年全員 2単位
概要	主テーマ：表現 上半期はICT利用の基礎とプログラミング学習、下半期は図表等を用いた論理的思考・表現活動。	主テーマ：アイデア 科学的なトピックについて、英語を用いた論理的思考・発信活動を実施。SDGsに関する諸問題も扱う。	主テーマ：科学的探究 科学的なトピックについて、英語を用いた論理的思考・発信活動を実施。SDGsに関する諸問題も扱う。	主テーマ：地域貢献 地域課題に自然科学と社会科学の両面からアプローチする課題研究。地域への還元まで実施。	主テーマ：理解 上半期は社会科学、下半期は自然科学的側面から『水』にアプローチする学習・探究。
主に育成を目指す資質・能力	Basis	Glocal	Research	Glocal	Basis